



◇ 理事長メッセージ

EU 学会理事長  
須網隆夫 (早稲田大学)

前回のニュースレター以後も、EUをめぐるといっては事欠きません。むしろ騒がしいと言っても良いでしょう。対内的には、去る5月下旬に、欧州議会の選挙があり、EU懐疑派の諸勢力の伸長が報じられました。6～7月には、欧州委員会の新委員長の選出がホットな話題となり、欧州理事会での投票を経て、ルクセンブルク元首相のユンケルが、ほぼ予想通りに新委員長に選出されました。対外関係では、ウクライナ危機が継続しています。3月のクリミアのロシア編入後、ウクライナ東部での親露派武装勢力とウクライナ政府軍との武力衝突が続く中、7月には、マレーシア航空機がウクライナ東部上空で墜落され、親露派の関与の可能性が指摘されています。ユーロ危機からの脱却も、なお道半ばである今日、対内的・対外的に困難な課題を抱え、EUの今後に影響する要素は益々複雑化していると言わなければならないでしょう。そのような中で、日本にとって重要なEUとのFTA交渉も進みつつあります。11月の研究大会では、EUの現在、そして今後を、皆様と様々な角度から議論させて頂きたいと存じます。

さて今回は、5月にオーストラリア・メルボルンで開催された「アジア・太平洋EU学会」の2014年度・研究大会（統一テーマ「アジアの陰の下にあるEU—変化しつつあるEU・アジア関係」）について報告させていただきます。

目次

- ◇理事長メッセージ……………須網隆夫
  - ◇在外研究の記……………中村民雄
  - ◇EU 関連文献紹介
  - ◇事務局からのお知らせ
    - ・新入会員一覧
    - ・第35回(2014年度)研究大会  
暫定プログラム
    - ・第36回研究大会企画委員会
    - ・理事職務分担の変更について
  - ◇広報委員会から
    - ・EU 関連書文献紹介コーナー設置について
    - ・ニュースレター原稿の募集
- \* 暫定プログラムは最終2ページ掲載です。

研究大会は、5月1日と2日の両日、メルボルン市内中心部に近い、メルボルン工科大学で開催された。プログラムの概要を紹介すると、第1目の午前は、第1セッション「EUとアジア：政策とパワー」（3分科会）、第2セッション「政治的経済的相互作用、政策、開発、安全保障（I）」（3分科会）、第3セッション「同（II）」（2分科会）、昼食を挟んで、午後は、全体会での基調講演1「EUのアジアへの関与：三層構造と取り組む」(Philomena Murray 教授)、第4セッション「ユーロ圏危機とEU加盟国であること」（2分科会）、第5セッション「自己及び他者の認識、ディアスポラ、移住と文化」（2分科会）であった。第2日目午前は、全体会での基調講演2「ヨーロッパとアジア太平洋関係の再均衡」(Bruce Wilson 教授)に続き、第6セッション「EUとアジア：中心点と権力均衡」（2分科会）、第7セッション「ASEANとEUの政治的経済的相互作用」（2分科会）、昼食を挟んで、午後は第8セッション「EUとアジア：地域主義、挑戦と関係」（2分科会）、そして全体会でラウンドテーブルとして「EUとアジア、誰が誰の陰になっているのか」が行われ、最後の挨拶により閉会となった。参加者は、開催地オーストラリアを始め、ニュージーランド・インドネシア・香港・韓国・シンガポール等のアジア・太平洋地域に加え、ヨーロッパ諸国からの参加者も含めて約100名であり、各分科会の報告数は50以上に達していた。各報告は、質疑を含めて20分程度であり、いささか時間は不足気味であった。

この会議に出席するのは初めてであったが、法律分野の報告者はほとんどいないものの、会議全体としては大変に興味深いものであった。並行して複数の分科会が開催されたため、主に、EU・アジア関係を対象とする分科会に出席したが、多くの報告は、アジアにとってのEU、EUにとってのアジアを客観的に分析にした上

で、様々な視点から、EU・アジア関係を論じていた。私の理解した限り、報告・議論の基調は、概ね以下のようなものであった。第一に、ユーロ危機が、通商・金融・資本移動面での影響を通じて、アジア経済に大きな影響を与えたことが示すように、経済関係は、EUとアジア関係の中軸である。EUはASEANへの最大の投資家であり、価値生産過程がグローバルに組織される中で、EUとアジアの経済的相互依存が進んでおり、EUは、アジアでも通商・開発のアクターであると広く認識されている。第二に、これに対して安全保障面では、EUの貢献は大きくなく、EUはこの分野ではアクターとして認識されていない。しかし、経済関係を除いて、アジアに政治的利害がないと見られることはEUの利点でもある。EUは、実際には、安定したアジアの秩序に利害関係を有しており、アジア・太平洋の政治的緊張に無関心ではない。そして気候変動の結果生じるような、非伝統的な安全保障上の脅威には、危機管理の面で、協力できる可能性がある。第三に、このようなEUの対アジア政策の遂行に際しては、EUのソフトパワー（規範的・非軍事的パワー）が重視され、EUは、外交政策、開発援助政策、安全保障政策を包括的に推進するアプローチを採用すべきである。EUの対アジア政策には、EU機関間の調整の不足・政策分野間の一貫性の欠如など、様々な欠点も指摘されるが、多くの報告は、EUの限界を認識しながらも、アジアの平和・安全に、EUの貢献可能性は模索に値すると認識していた。

これらの議論からは、各国の研究者が、アジア・太平洋地域におけるEU研究者として、EUの行動に期待するとともに、この地域の抱える問題解決のための示唆をEUから得ようとする姿勢が共通している。EUを通じた国家間の和解が、アジアにとって、直ちに採用できるモデルではないが、地域内の信頼醸成・通貨協力など、EUが部分的に参考となる場面は少なく

ない。考えてみれば、このような観点からEUを議論することは、アジア・太平洋学会の独壇場であり、そこにこの地域学会の存在意義があるのであろう。これまで、同学会との連絡は、理事長が担当する慣例であるが、理事長の任期が2年であることを考慮すると、理事会内に同学会の担当者を置き、もう少し長い期間での関係構築を展望すべきであるようにも思う。

なお、アジア・太平洋EU学会を構成する各国のEU学会の理事長会合が2日目の朝食時に行われた。本学会に係る最大のテーマは、研究大会の日本における開催である。既に4月の理事会でも報告したが、2017年度の研究大会の開催を、日本で引き受けるように要請された。要請への対応の是非が、今後議論する必要がある。日本では、既に慶応大学で一度大会を開催しているが、日本EU学会が、アジア・太平洋EU学会に参加している以上、時期は別として、また義務を果たさなければならないであろう。



---

## 在外研究の記

---

### ベネチア百十日

早稲田大学 中村民雄

「ベネチア？いいですね～」羨望まじりに送られて、まあ私も満更でもなく、2014年2月中旬から5月末まで、ベネチア国際大学に百十日派遣され、「EU法発展史」と「地域主義比較(EUとASEAN)」の2つのコースを教えてきた。実際、楽しかった。

教えることよりも、学生に交じっていろいろ習うほうが楽しかった。習ったもので面白かったのは、イタリア語である。初級クラスの学生4人に教員学生2名（私ともう一人アメリカ人の先生）が加わり、6名がイタリア人の先生に教えてもらった。単数複数形、女性男性形、動詞の活用、お定まりの内容であるが、それでも単語数が増えると、生活が楽しくなる。大学にはカフェがあり、そこに職員や教員や学生が三々五々集まってくる。とくに午後2時ごろが狙い目である。学生は午後の授業に行き、職員や教員しかカフェにいない。そこで地元の職員相手に、習いたてほやほやの文法を手掛かりに、単語を羅列して自分のイタリア語の上達度をテストするのである。ちなみにベネチアは、ハトが多い。ある日私が狭い路地から広場にでたとき、突然、頭上からフンをかけられた。何が起きたのかわからず、異様な音がしたので見上げたら、ハトが飛び去っていた。スーツの肩口はしっとり白いものが流れている。その経験を、初級イタリア語で表現してみた。Il piccione mi ha bombardato. (ハトが私を爆撃しました。) カフェは爆笑の渦であった。受けたので、クリーニング屋のおばさんにも言ってみたら、怪訝(げん)な顔をされた。

ベネチア国際大学は、世界各国のメンバー大学が、教員と学生を学期ごとに派遣して「国際大学」を編成する。学期ごとの寄せ集め大学である。イタリア、ドイツ、フランス、スペイン、ロシア、イスラエル、アメリカ、中国、韓国、日本などのメンバー大学からきた学生と教員のカーニバルであった。ベネチア本島からvaporettoと呼ばれる水上バスで10分ほどの小島にある。修道院のような建物に大学の教室、カフェがあり、隣に広がる木々の多い庭の他方の端に食堂、学生寮、テニスコートなどがある。観光客でベネチア本島がごった返すときも、この小島は天国のようにのどかだった。3月はモクレンが、4月は藤の花が、5月は若葉が、目を奪

い、鼻をくすぐった。

2 コースをそれぞれ週 2 回 (週 4 コマ) 英語で教えた。クラスは少人数で EU 法発展史は 18 名、地域主義比較は 9 名だった。自ずと講義というより討論形式になる。EU 法のほうは、ヨーロッパの学生からみれば、域外のガイジン先生が EU 法の歴史を教えるわけだから、さぞかし胡散臭がられるだろうと思っていたのだが、意外と学生たちは普通に受け入れてくれて、法学部の学生などいなかったが、よく学んで好成绩をあげてくれた。ちょうど EU 議会選挙もあっていたので、ヨーロッパ各国の学生に自国の主要政党の主張や各国の世論調査などを報告させ、Spitzenkandidaten (欧州委員会委員長候補を各政党が掲げて選挙を戦う、筆頭候補方式) の EU 法上の意味合いも討論した。

教えていて、また中間・期末の論文答案を採点していて、つくづく感じたのが、大量の課題文献を読み、消化して、自分なりに疑問や批判もまじえて、課題小論文を書くという、欧米では当然のように行われている大学の知的訓練の大切さである。これがきちんとできる学生は、討論も強い。寄せ集め大学なので、それぞれの母体大学で学生たちがどんな知的訓練を受けてきたのか、その違いが手に取るようにわかる。私のクラスにはアジア地域からは日本の学生しか加わっていなかったが、なべて連中は、ものを批判的に考える訓練を経おらず、暗記や丸写しに傾き、結果、大事なことと些末なことの区別すらできない、いわんや論証の技法など理解も体得もしていない、ウィキペディアの劣等版のような小論文しか書けなかったのである。

今の日本の大学は、国際競争力向上のために、やれ学部の専門授業でも英語で提供する科目を増やせだのと騒いでいるが、もっと根本的なことが先だろう。事実と評価の記述を区別しながら文献を消化し、物事を **critical** に考え、ロゴス (言葉) をロジカルに用いて文章に構成し、相手を説得するという、ヨーロッパの伝統的な知

的技法そのものの訓練、それが欠けている。そういう知的技法がなければ、国際競争力などつきはしない……。<フン、何を偉そうに。そういう教員も同罪が多いだろう。それに訓練させるのは教員じゃないか。>ハトがまた爆撃してきそうである。なるほど学生は、なまくら教師の犠牲者でもあるだろう。ベネチアでそんなことを考えていた。



---

## EU 関連文献紹介

### (2013 年 4 月～2014 年 4 月)

---

『環境の EU、規範の政治』 (臼井陽一郎著) ナカニシヤ出版、2013 年 4 月。

『新・EU 論』 (植田隆子編著) 信山社、2014 年 4 月 15 日。

『統合の終焉—EU の実像と論理』 (遠藤乾著) 岩波書店、2013 年 4 月。

『私たちの国際経済 [第 3 版]』 (東京経済大学国際経済グループ著) 有斐閣、2013 年 4 月。

『EU とグローバル・ガバナンス—国際秩序形成におけるヨーロッパ的価値』 (安江則子編著) 編法律文化社、2013 年 9 月。

『EU (欧州連合) を知るための 63 章』 (羽場久美子編著) 明石書店、2013 年 9 月。

『EU 権限の法構造』 (中西優美子著) 信山社、2013 年 10 月 31 日。

『地元で電気をつくる本—市民発電所でエネルギーが変わる』 (市民のエネルギーひろば・ねりま編) ぶなのもり、2014 年 3 月 3 日。

*The Politics of Financial Markets and Regulation: The United, States, Japan, and Germany* (神江沙蘭著) Palgrave Macmillan, 2014 年 2 月。

---

## 事務局からのお知らせ

---

### ◇ 新入会員一覧

2014年4月の理事会で入会を承認された方々は以下の通りです。

氏名	所属	分野
1. 山本志郎	中央大学大学院(院)	L
2. 中野 実	ブリティッシュ・エア ウェイズ・ピーエルー シー	P
3. 金 善照	立教大学(院)	P

### ◇第35回(2014年度)研究大会暫定プログラム

第35回(2014年度)研究大会の暫定プログラムをお知らせ致します。本ニューズレターの最後をご覧ください。

最終的なプログラムは、後日送付させて頂く研究大会プログラムでご確認下さい。

### ◇第36回研究大会(2015年度)企画委員会

2014年4月の理事会において、関西大学で開催予定の第36回研究大会(2015年度)の企画委員会のメンバーを以下の通り決定致しました。

理事長：須網隆夫 L

事務局長：小久保康之 P

年報編集委員長：高屋定美 E

久保広正 E、蓮見雄 E

庄司克宏 L、中村民雄 L

福田耕治 P、森井裕一 P

オブザーバー：高屋定美 E (開催校)

なお、企画委員長は後日互選で選出することになっています。

### ◇理事職務分担の変更について

2014年4月1日より、事務局長には小久保康之 P が、編集委員長には高屋定美 E が就任した。それに伴い、事務局連絡先、年報関連規程に関

する連絡先がそれぞれ変わりましたので、ご注意ください。

### ■新事務局

〒226-0015

横浜市緑区三保町3-2

東洋英和女学院大学国際社会学部

小久保康之研究室内

電話：045-922-5511(代) FAX:045-922-6642

E-mail: kokubo\*toyoeiwa.ac.jp(\*を@に)

### ■新編集委員長：高屋定美

E-mail: takaya\*kansai-u.ac.jp (\*を@に)

---

## 広報委員会から

---

### ◇EU関連文献紹介コーナー設置について

本号より毎年夏のニューズレターで、前年度内に発行されたEU関連書籍の紹介コーナーを設けます。これは、会員個人の業績をお知らせするものではなく、あくまでも、EU研究にとっての新刊参考文献を広く会員諸氏にご案内することで、情報の共有をはかることを目的にいたします。当学会会員の執筆による、単著または共著の出版物のみ(紀要を除きます)に限らせていただきます。ニューズレターへの掲載は、書名、著者もしくは編者のお名前、出版社、出版年月日のみとさせていただきます。随時受け付けますので、皆様からのお知らせをお待ちいたします。前述の情報を、広報委員長(八谷まち子)までメールでお知らせください。

hachiya\*law.kyushu-u.ac.jp(\*を@に置き換える)

### ◇ニューズレター原稿の募集

広報委員会では、会員の皆様方からのご寄稿を常時募集しています。内容は問いません。ご寄稿いただいた原稿のニューズレターへの掲載に

については広報委員会にご一任をお願いします。

分量：横書き 1200 字程度。

期限：随時受け付けますが、ニューズレターの夏・冬年 2 回発行にあわせ、6 月末日と 12 月末日がそれぞれ締め切り日となります。

提出先：広報委員の八谷または中西まで、下記  
のアドレス宛てに添付ファイル (Word)  
にてお送り下さい。

〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-19-1

九州大学 法学研究院 八谷 まち子

e-mail:hachiya@law.kyushu-u.ac.jp

〒186-8601 国立市中 2-1

一橋大学 法学研究科 中西 優美子

e-mail:yumiko.nakanishi@r.hit-u.ac.jp



#### (編集後記)

学会ニューズレター、第 33 号をお届けいたします。今号の「在外研究記」は、やや趣向を変えて、海外（ヴェネチア！）での授業提供を通して再考される日本の現状へのご意見です。

新体制になって 2 年目にはいりました。さっそく新委員からの提案で、EU 関連文献の新刊紹介コーナーを設けることになりました。かつて中村民雄会員が会員の業績一覧を整理して学会誌に毎年掲載いただくという大変な労をお取りいただいていた時期がありました。今回は、もっと緩やかな編集です。EU が研究対象に限定された課題に留まらず、幅広く一般の方々の耳目にも日常的に触れるようになった今日の状況に対応したリストの作成を目指しています。皆様からのご紹介をよろしく願いいたします。

新体制はちょっとした「改革実行体制」になりそうです。HP の改訂と一斉メールでのお知らせ方法の改善に取り組んでいます。こちらは、次回研究大会でご案内する予定です。

(八谷まち子)

日本 EU 学会ニューズレター 第 33 号

(2014 年 (平成 26) 年 8 月 20 日発行)

発行 日本 EU 学会 広報委員会

発行責任者 八谷 まち子

編集責任者 八谷 まち子

.....  
【日本 EU 学会事務局】

〒226-0015

神奈川県横浜市緑区三保町 32

東洋英和女学院大学 国際社会学部

小久保康之研究室内

TEL: 045-922-5511 (代表)

045-922-7322 (研究室直通)

FAX: 045-922-6642

E-mail: kokubo@toyoeiwa.ac.jp

(日本 EU 学会 HP アドレス)

日本語

<http://www.eusa-japan.org/index.html>

英語

<http://www.eusa-japan.org/index-e.html>

# 日本 EU 学会 第 35 回(2014 年度)研究大会(案)

## 共通論題 「EU の連帯」

2014 年 11 月 8 日(土)～9 日(日)

会 場: 立正大学(品川キャンパス)

第 1 日 11 月 8 日(土) 開場(受付開始) 12:00～

共通論題 「EU の連帯」		
理事会 <11:00～12:50>		
1. 全体セッション第 I 部 <13:00～15:10> 基調報告 報告時間 40 分(質疑無し)/基調報告以外の報告 報告時間 30 分 質疑 15 分		
報告者	論 題	司会者
(1) 田中 素香 (中央大学)	【基調報告】 EU の連帯とユーロ圏の連帯	鷺江 義勝 (同志社大学)
(2) 濱口 桂一郎 (労働政策研究・研修機構)	EU 集团的労使関係システムの課題	福田 耕治 (早稲田大学)
(3) 安江 則子 (立命館大学)	EU 市民権の再検証と「連帯」への課題 －EU mobile citizens を素材に－	
休憩 <15:10～15:20>		
2. Plenary Session II <15:20～17:45> (in English) First presentation 20 minutes, Second presentation 60 minutes Third presentation 40 minutes, Discussion 25 minutes		
Presenters	Topics	Chairperson
(1) Delegation of the European Union to Japan (15:20～15:40)	To be confirmed	Hiromasa KUBO (Setsunan University)
(2) Dr. Jörg Monar (College of Europe) (15:40～16:40)	“Solidarity as a challenge for the EU: The case of justice and home affairs”	
(3) Stephen Day (Oita University) (16:40～17:20)	“The 8 <sup>th</sup> European Parliamentary Election and Solidarity in the EU	
Discussion (17:20～17:45)		
総 会 <17:45～17:55>		
懇 親 会 <18:00～20:00>		

第2日 11月9日(日) 開場(受付開始) 9:00～

1. 分科会 <9:30～12:00> 報告時間各 30 分 質疑 20 分			
区分	報告者	論 題	司会者
市民レベルの連帯分科会	A 山本 志郎 (中央大学(院))	EU域内市場における労働法の課題—協約自治モデルの欠如と侵食	嶋田 巧 (同志社大学)
	佐藤 俊輔 (エラスムス・ムントゥス GEM フェロー(院))	「EUにおける移民統合モデルの収斂?—「市民統合」政策を事例として	
	佐藤 良輔 (神戸大学(院))	開放型調整方式に基づく欧州化とそのメカニズム—EU の移民統合政策の発展をとおして—	
経済分科会	B 金 善照 (立教大学(院))	欧州特許統合における国家比較研究—欧州特許条約の拡大(1977-2010 年)—	松浦 一悦 (松山大学)
	佐藤 秀樹 (金沢大学)	銀行同盟の建設と進展:銀行規制・監督の調和への挑戦	
	平岡 祥孝 (札幌大谷大学)	EU生乳クォータ制度に関する経済分析—国酪農業を事例として—	
政治社会分科会	C 吉沢 晃 (エラスムス・ムントゥス GEM フェロー(院)、EUI J早稲田)	Strategic or Stringent? Understanding the Nationality-blindness of EU Competition Policy from the Regulatory State Perspective	細谷 雄一 (慶應義塾大学)
	原田 徹 (拓殖大学・駒沢女子大学(非常勤))	危機を契機とするEUの連帯と統合:その政治過程と規範の検討	
	安達 亜紀 (東京大学(非常勤))	EU 環境政策の実施段階における参加型ガバナンスの制度化	
昼食・休憩/理事会 <12:00～13:30>			
総 会 <13:30～13:45>			
2. 全体セッション第Ⅲ部「ウクライナ危機とEUの連帯」<13:45～16:45> 報告時間各 20 分 コメンテーター各 10 分 (休憩 15 分) 全体討論 45 分			
報告者	論 題	司会者	
(1) 服部 倫卓 (ロシア NIS 経済研究所)	ウクライナ経済の概要と対 EU 関係	羽場 久美子 (青山学院大学)	
(2) 東野 篤子 (筑波大学)	EU の対ウクライナ政策		
(3) 吉崎 知典 (防衛研究所)	ウクライナ危機へのEUの対応—安全保障の側面		
(4) 蓮見 雄 (立正大学)	EU におけるエネルギー連帯の契機としてのウクライナ		
(5)川崎 恭治 (一橋大学)	国際法から見たロシアによるクリミア併合と国際社会および欧州の対応		
石川 一洋(NHK 調整中) 小泉 悠(未来工学研究所)	討論		
休憩<15:45～16:00>			
全体討論			